

科目名		授業形態		担当教員名			
臨床生理学		講義		石川 倫子			
時間数 (単位数)		授業回数		年次		開講時期	
60 時間 (2 単位)		30 回		2 年次		通年	
授業の目的・概要							
<p>生体の仕組みを理解することは様々な疾患の成因や病態を知るうえで必要不可欠である。本科目では、人体を理解する上で必要な生理機能について解説する。また、疾患との関わりについても適宜紹介し、病態の成因についての理解を深める。</p>							
授業の到達目標							
<p>①人体の様々な生理機能について学び、疾患の成因や治療方針が理解できるようにする。②生理機能検査（心電図、脳波、筋電図、呼吸機能検査など）行う理由と意義を理解する。</p>							
授業計画							
回	内容			回	内容		
1	細胞の仕組み			16	呼吸器の仕組み 外呼吸		
2	神経系の仕組み 神経細胞			17	呼吸器の仕組み 内呼吸		
3	神経系の仕組み 中枢神経 脳			18	消化の仕組み 消化管		
4	神経系の仕組み 中枢神経 脊髄			19	消化の仕組み 消化液		
5	神経系の仕組み 末梢神経系			20	消化の仕組み 付属腺		
6	神経系の仕組み 覚醒・睡眠 高次脳機能			21	代謝の仕組み 糖 蛋白質		
7	感覚の仕組み 視覚と聴覚			22	代謝の仕組み 脂質 尿酸		
8	感覚の仕組み 味覚と嗅覚			23	代謝の仕組み ビタミン		
9	感覚の仕組み 体性感覚と内臓感覚			24	排泄の仕組み 腎機能		
10	身体運動の仕組み 骨と関節			25	排泄の仕組み 尿		
11	身体運動の仕組み 筋肉			26	生殖の仕組み 男性		
12	循環の仕組み 心臓			27	生殖の仕組み 女性		
13	循環の仕組み 血管と体液調節			28	ホルモンの仕組み 下垂体		
14	ホメオスタシスの仕組み 体液調節			29	ホルモンの仕組み 甲状腺、副甲状腺		
15	ホメオスタシスの仕組み 血圧調節			30	ホルモンの仕組み 副腎、膵臓		
成績の評価法と基準							
種別	割合	評価基準・その他備考					
定期試験	80%						
レポート							
小テスト							
平常点	20%	ノート提出 黒板の内容だけでなく、自分で理解を深める工夫が認められるかどうか					
その他							
自由記載	総合評価で60点以上を合格とする						
教科書							
書名	著者・編集者名			出版社名			
NEW 生体のしくみ標準テキスト 新しい解剖生理学	高松 研、堀内 ふき			医学映像教育センター			
みえる人体	佐藤 達夫、松尾 理			南江堂			
自由記載							
参考文献							
書名	著者・編集者名			出版社名			
自由記載							
備考							